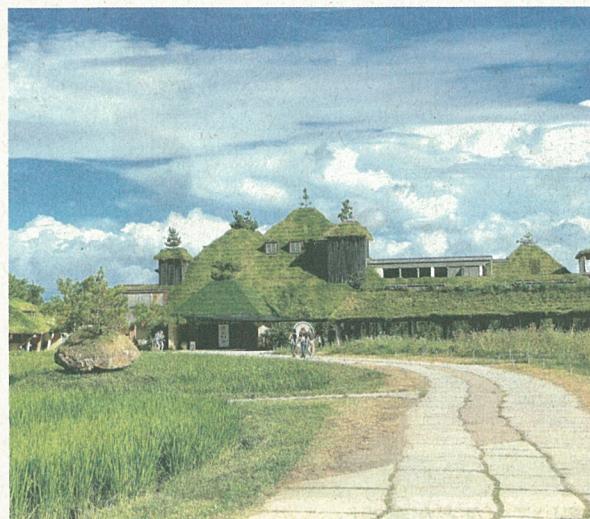


探訪

新ライフスタイル

イタリア・ベネチアは地球温暖化の急激な海面上昇により、数十年後には海の下に沈んでしまう恐れがあるという。日本でも猛暑や集中豪雨など気候変動問題は深刻で、他人事ではないと実感した。最も恐ろしいリスクは、環境保全活動を先延ばしにすることだ。一人ひとりが主体性をもつて

「持続可能社会」近江商人の志



地球に優しい「ラ・コリーナ」の屋上緑化

子の原材料は入手できないと危機感を抱き、1992年より環境配慮・資源化を経営の軸とした。

2015年には自然と人がバランスを保つて共生することの大切さを体験できる複合施設「ラ・コリーナ」がバランシングを保つて共生することの大切さを体験できる複合施設「ラ・コリーナ」を近江八幡市内に開設し、17年には「たね

12万平方㍍のラ・コリーナはイタリア語で「丘」を意味する。

松本大地

取り組む持続可能な社会に向けた運動が世界で広がりつつある。

1872年創業の「たねや」は滋賀県近江八幡市を発祥とした和・洋菓子の製

ライフスタイル

環境配慮、まず実践が共感に

造販売を営み、滋賀県以外でも主要都市の百貨店を中心とした販路としてきた。持続可能な和洋菓子の開拓で工場

社会を実現しなければならない手

社会へ貢献を考えてきた。

「バッジをつけてSDGスゴっこをするより、まずはここをやわらげること」が山本昌仁氏は語る。礼節

の姿勢が共感を呼び、ブランド価値の向上を通じて持続的な成長につながる。

近江商人が説く「三方よし」は、「売り手」と「買手」と「世間」のすべてによしとなる商いのあり方だ。近江商人はもともと地

域社会への貢献を考えていた。結果、今期後半には前年対比で変わらぬ売上実績を残した。経営を安定させることで、ラ・コリーナを含む地域社会が持続する。

20代の若い世代の姿だった。彼らは社会課題が直撃する世代もある。自分たちが向き合った社会を自らよしよくしていきたいと、世界中で行動を起こしている

SDGsの根っこと考え、企業経営と環境保全を両立することで共感が広がる。若者も増えている。時代を

SDGsの根っこと考え、企業経営と環境保全を両立することで共感が広がる。若者も増えている。時代を

12万平方㍍のラ・コリーナはイタリア語で「丘」を意味する。

松本大地

新型コロナウイルス感染症は回復基調だ。従来は百

超が訪れる滋賀県随一の観光名所に育った。SDGs

ネット通販やドライブスル

開発目標「宣言」を掲げた。

敷地面積約3・6万坪(約

拡大前には年間320万人

貨店販売が主であったが、

(商い創造研究所代表

松本大地)